

## <スライド 講師紹介>

「挑戦したくなる！  
高校生・大学生が考え、  
行動を起こせる街」

さっぽろまなびまくり社

名達 諒  
遠藤 愛彩 斉藤 心音  
木根 里美 眞所 柚衣

(司会)

それでは、さっぽろまなびまくり社のみなさまよりお話をいただきます。「挑戦したくなる！高校生・大学生が考え、行動を起こせる街」でございます。それでは、どうぞよろしくお願いいたします。

## <スライド 1枚目>



みなさんこんにちは。今日はよろしくお願いいたします。

これからさっぽろまなびまくり社の活動紹介をさせていただきます。

2日前に卒業しましたが、大通高校の高校生としてお話させていただきます。名達諒と申します。

まずは、私の方からまなびまくり社の概要を説明させていただいて、その後に今年度まなびまくり社4期生として活動した高校生にバトンタッチして、活動紹介をしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

## <スライド 2枚目>



まなびまくり社では、高校生、大人、そして大学生が共にまちづくりや地域の課題解決、そして自身の野望を探求しながら企画を作っています。

### <スライド 3枚目>



そこで鍵となるのが、この後お話ししてくれる高校生の存在です。  
好きなことや、興味のあることを探究しながら、街にどんな影響を与えることができるのか。ということをサポートしてくれる大人たちとともに考えていきます。

### <スライド 4枚目>



まなびまくり社は、札幌市の方々と、サッポロプレイスメイキングラボといった組織に支えられて活動をしています。

そして、高校生は、札幌市教育委員会と連携した学校間連携プログラムによって、総合的な探求の時間を活用しながら活動しています。

### <スライド 5枚目>



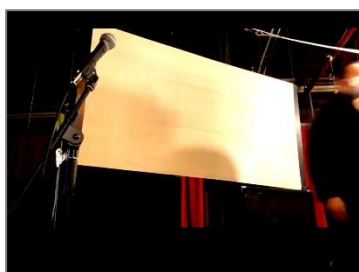
まなびまくり社に参加する時に、私も大好きな心得があります。それができるとや、こうなってほしいという思いから考えるのではなくて、自分のできることがどうやったら実現できるのか、こうなるためにこれをやるという意識を持って、大人も高校生も取り組んでいます。

### <スライド 6枚目>



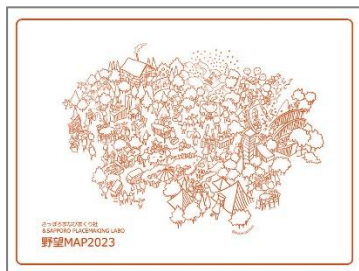
まなびまくり社の第1回目では、高校生にいきなり「あなたの野望はなんですか」という問いが投げかけられ、最初は回答に困る高校生が多くて若干沈黙してしまいましたが、次第に全員が自分の野望を話していきます。

### <スライド 7枚目>



それを、まなびまくり社の代表である林さんが、その場で1枚の絵に描いていきます。

### <スライド 8枚目>



そして、完成した絵がこちらで、これが今年度の高校生の野望が詰まった「野望マップ」になっています。

絵によって可視化されることで、高校生のやる気や、自分がどこに貢献できるか。というのがイメージしやすくなっています。

### <スライド 9枚目>



その後、似た野望を持った高校生同士がチーム分けされて、グループで対話をしながら内容を深めていきます。

まなびまくり社では、この高校生がひざに乗せている「エンタくん」というツールを使って、チームワークも深めながら進んでいきます。

### <スライド 10枚目>



そして、そこに企業の大人や、大学生がメンターとして参加して、実現に向けて企画を作っていきます。

### <スライド 11枚目>



毎回、まなびまくり社の会が終わるごとに、チームごとに今回どんな進展があったのか。これからどういう進み方をしていくのか。という共有をして、必要があれば他のチームとコラボしながら進んでいくこともあります。

<スライド 12枚目>



実際に高校生がお店を出したり、

<スライド 13枚目>



カフェをやってみたり、地域の人々や大人に助けられて、少しずつ企画が実現していくところです。

<スライド 14枚目>



なかには高校生のアートや、斬新なアイデアを活用した場のデザインも事例の1つとしてあります。

<スライド 15・16枚目>



まなびまくり社は、大通公園とあけぼの団地の2つの実証実験をメインに行っています。



<スライド 17・18枚目>



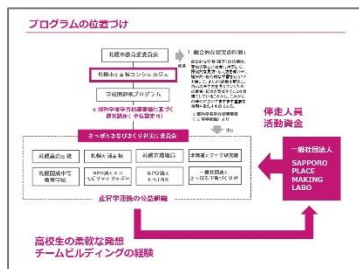
これは、殺風景だったエリアを高校生がこのような温かい空間に変えていくような事例や、

<スライド 19・20枚目>



今年度、2023年度の参加者が111人ということで、とても多くの高校生、そして大学生、大人が参加して企画を作っていました。

<スライド 21枚目>



プログラムの位置付けですけど、高校生が安心して取り組める仕組みができていまして、高校生はこの授業の時間や、探求講座ということで単位認定が可能なので、勉強、学習のひとつとして、学校内で取り組むことができるようになっています。

そして、そんな高校生の活動を支えてくれるのが、このさっぽろまなびまくり社実行委員会に入っている企業の方々や、一般社団法人プレイスメイキンググラボの方々から支援を受けて活動しています。

## <スライド 22枚目>



これがサッポロプレイスメイキングラボの方々ですね。いつもこの5人のパワフルな人たちに助けられてやっています。

## <スライド 23枚目>



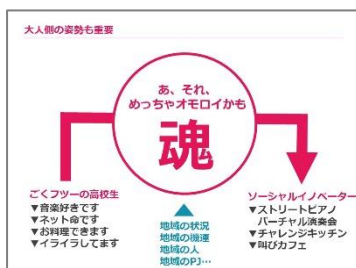
これがプレイスメイキングラボがスタートした時の写真ですけど、僕が1番前に寝そべっていますが、こんな感じで、高校生を温かく迎えてくれる大人たちのおかげで、まなびまくり社の高校生は安心して、のびのび活動できるといったような雰囲気作りや環境作りを、先ほどの5人が整えてくれている。というような状況です。

## <スライド 24枚目>



そして、高校生は、自分たちの野望実現のために、高校生自身が実現に必要な人々を巻き込みながら活動の幅を広げていきます。

## <スライド 25枚目>



そして、自分だとかいうのは普通。とか、僕の趣味は普通です。と思っている高校生も、実はその人しかできない。とか、その人だからできること。というものがあって、それを大人たちが伴走しながら、発掘してくれることで形になっていく企画がたくさんあります。

そのようにして、大人たちの温かい姿勢によって、私たち高校生は支えられて活動をしています。

### <スライド 26枚目>

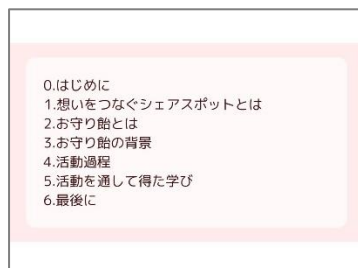


ここからは、2023年度にまなびまくり社で活動した高校生に、あけぼの団地での活動事例を中心にお話ししていただこうと思います。

よろしくお願いします。

みなさん、こんにちは。「想いをつなぐシェアスポット」チームの説明をさせていただきます。眞所柚衣です。どうぞよろしくお願いします。

### <スライド 27枚目>



まず、今回の発表はこのような流れとなっています。

### <スライド 28枚目>



まず初めに、私が活動を始める前から問題視していることがあって、日本の自殺率が増加傾向にあること、希死念慮を抱える人が増えていること、そして、日本の社会



問題としてストレス社会が上がっていることを問題視していました。

### <スライド 29枚目>



命をつなげる情報発信をしたい。少しでも辛い思いをしている人の心を軽くしたい。それぞれの居場所を作りたい。そう思って、まなびまくり社に参加し、活動することを決めました。

### <スライド 30枚目>



次に、「想いをつなぐシェアスポット」チームの活動についてです。

「想いをつなぐシェアスポット」チームに集まった人は、それぞれ問題視していることや目指したいものがはっきりとしていたので、およそのメンバーが1人1つずつ異なる活動をしていました。

活動内容としましては、多世代、多様な繋がりを生む「茶道ワークショップ」や、見知らぬ誰かの日常と繋がる「お手紙ガチャ」、そして、自分の居場所を作る「お守り飴」、日常を彩る「傘アート」や「バーチャル空間」、会話のきっかけを作る「お悩み相談掲示板」や、本で人を、心をつなぐ「旅する本箱」です。

### <スライド 31枚目>



なかでも今回は、私が考案した「お守り飴」について紹介させていただきます。まず、お守り飴とは、手作りのお守りの中に飴が2つ入っていて、表面の方に運勢

シールが貼ってあるものです。運勢シールは全部で5種類がありまして、この左にあるシカさんが恋愛運のシールです。

### <スライド 32枚目>



お守り飴ができた背景としましては、私の実体験にありまして、私は過去にいじめられたことがありました。すごい、ずっと自分の居場所がないな。と感じていて、しんどいっていう気持ちを抱えながら毎日を生きていました。

### <スライド 33枚目>



そんななか、ふと、自分の机の上を見てみると、飴が置いてあって、少しでも気が紛れるかな。と思ってなめてみると、なんだか不思議と少し落ち着く気がしたんですね。

### <スライド 34枚目>



それから時間が経って、環境も変わって、飴の効果ってなんかあるのかな。と調べてみると、糖分のおかげで思考力が回復する効果や、飴をなめるという行動に集中できることで他のことを考えなくて済むという効果や、安心できる効果があるということが分かりました。

### <スライド 35枚目>



飴をなめることで、しんどい考えをやめられる。しんどい考えをやめることで安心できる、私にとって、安心できる場所って自分の居場所だな。と思うので、飴をなめたら他の人も今いる場所が、自分の居場所だと思えるのではないかと考えました。

### <スライド 36枚目>



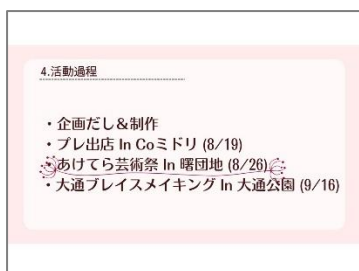
この飴の効果については、人それぞれ効果が異なると思うので、全員に効果があるわけではないとは思いますが、何人かに効果があるかもしれない。1人でも多くの辛い思いをしている人にこの情報を届けたい。と思い、この飴の情報について発信することを決意しました。

### <スライド 37枚目>



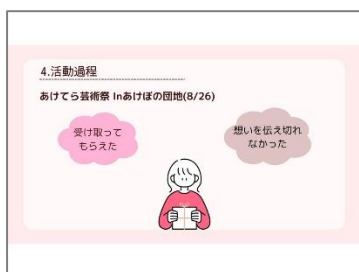
そして、どうやってこの飴の情報を発信しようか。と考えた時に、飴は安心できるもの。持っていて安心できるものはお守り。というように、連想ゲームのように発想を展開させて、お守り×飴を考えました。

### <スライド 38枚目>



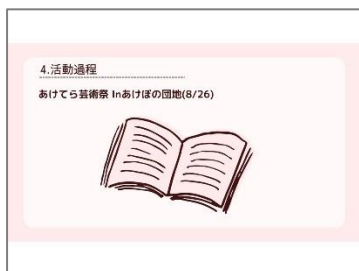
次に、シェアスポットチームの活動過程についてです。活動過程はこのようになっています。中でも私が1番成長を実感できたのは、8月26日に真駒内のあけぼの団地で開催された「あけてら芸術祭」です。

### <スライド 39枚目>



シェアスポットチームとしましても、出展中の思いつきで傘アートが生まれたり、想いの伝え方を実践を通して学んだりして成長できたと思いますし、私個人としてもお守り飴を受け取ってもらえた。という良い点があります。しかし、改善点も得ることができて、想いを伝えきれなかったんですね。

### <スライド 40枚目>



その時にどうやって次に伝えよう。と思った時に、自分の想いを込めつつ、全年代に伝わるように、文字の大きさに配慮したり、ルビを振ったり、温かみを持ったイラストを描いたりして、ミニ絵本を制作しました。そして、次の活動に繋げることができました。

#### <スライド 4 1 枚目>



今回の活動を通して得た学びは2つあります。1つは、高校生の原動力は無限大ということです。

#### <スライド 4 2 枚目>



そして、2つ目は、どんな案も否定から入らないことが大切ということです。

#### <スライド 4 3 枚目>



最後になりますが、私はこの真駒内で新しい学びの1歩、挑戦の1歩を踏み出すことができました。

私はこれからも真駒内に安心して最初の1歩を踏み出して、学びを深められる場所であってほしいと思います。私は高校在学中の今も、高校を卒業した後も、真駒内のこういう活動に携わっていきたいと思うので、みなさんも協力していただくと嬉しいなと思っています。ご清聴ありがとうございました。



#### <スライド 44枚目>



みなさん、こんにちは。私たちはまなびまくり社の「ツナガル音楽チーム」です。私たちは偶発性×ツナガルをテーマに、音楽で人と人をつなぐ活動をしてきました。先ほど「野望」という言葉があったと思いますが、

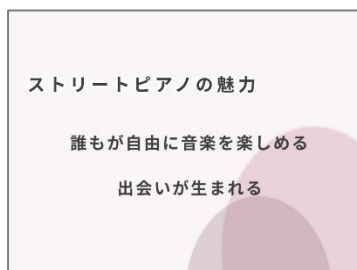
#### <スライド 45枚目>



ピアノが大好きな私たちは、ストリートピアノの魅力をもっと多くの方に知ってほしいという思いを以前から抱いていました。

ある時、ストリートピアノを弾いた際に、周りの方に声をかけていただいたことがあって、

#### <スライド 46枚目>



その経験から、ストリートピアノを通して生まれる出会いがあることに気づきました。

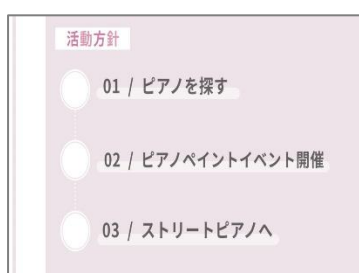
それまで私たちは、ストリートピアノの魅力は、誰もが自由に音楽を楽しめること。だと考えていたのですが、自らの経験で出会いが生まれることも、ストリートピアノの魅力ではないか。と新たに感じるようになりました。

## <スライド 47枚目>



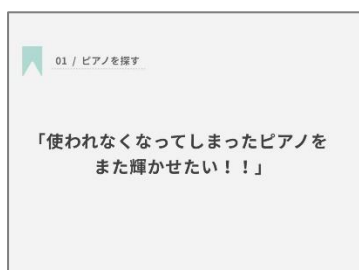
そこで、私たちがまなびまくり社に取り組んできたのが、「見ても弾いても楽しめるストリートピアノ」の設置・制作です。

## <スライド 48枚目>



ピアノを探すところから始まり、自らイベントを企画し、多くの方と一緒にペイントピアノを作り上げました。

## <スライド 49枚目>



ピアノを探すところから始まった私たちの活動ですが、最初、私たちは自分でピアノを探すつもりでいました。

普段、誰かに弾かれているピアノではなく、使われなくなってしまったピアノをまた輝かせたい。という思いのもと、

## <スライド 50・51枚目>



SNS を始めてピアノの募集したり、ポスターを作って呼びかけたりしましたが、限界があってなかなか見つけることができませんでした。そこで、まなびまくり社に相談させていただいたところ、

## <スライド 52枚目>



なんと、中古のピアノを買っていただくことができ、これをきっかけに活動が大きく前進しました。

## <スライド 53枚目>



また、真駒内にある子どもの体験活動の場 C o ミドリにもご協力いただきました。ここは、プレイパークとして解放されている場所で、まなびまくり社のミーティングが行われた場所でもあります。

### <スライド 54枚目>



こちらと連携することで、ピアノをつくる過程においても、地域の交流が深まると  
思い、活動を提案させていただいたところ、C o m i ドリでのイベントの開催が決定し  
ました。何度も打ち合わせを行い、子どもたちと試作を作ったり、

### <スライド 55枚目>



このようなポスターを作り、SNS で告知をするなど準備を進めていきました。

### <スライド 56枚目>



そして、8月4日にピアノにペイントするイベントを開催することができました。  
子どもから大人まで50人を超えるたくさんの方々に来ていただきました。

### <スライド 57枚目>



ピアノには事前にマスキングテープを貼り、ペイント後に剥がすことでピアノの黒い部分が残るように工夫しました。

### <スライド 58枚目>



そして、誰でも簡単に描くことができる丸を基調としたデザインになっています。さらに、ペイント後に白いポスカで上から自由に模様を描くことで、思いのこもった、見て楽しめるピアノになったと思います。

### <スライド 59枚目>



完成したピアノには「アスピアノ」という名前をつけました。

「Asu（アス）」は「私たちの(us)」と、「明日の（あす）」が掛けられていて、



## <スライド 60枚目>



みんなのピアノとなり、明日を生きる元気を与えられるピアノになってほしい。という思いが込められています。

## <スライド 61枚目>



この「アスピアーノ」は、昨年の8月25日、26日にあけぼの団地で行われた「あけてら芸術祭」にて、初めてストリートピアノとして設置させていただきました。

## <スライド 62枚目>



かけに会話が生まれたり、演奏後に温かい拍手が送られるなど、その場の方々全員が音楽でひとつになっていたと思います。

## <スライド 63枚目>



なかでも、ピアノを囲んで、即興でセッションが行われていて、まさに私たちは偶発的に繋がる。ということテーマにしており、それを実感することができました。

### <スライド 64枚目>



このイベントを成功することができたことで、1ヶ月後に行われたまなびまくり社の大通公園とサッポロファクトリーのイベントでも大成功を取ることができました。

### <スライド 65枚目>



ここでは、ストリートピアノを設置するだけでなく、フラッシュモブというものを実施して、音楽の魅力を伝えられたと思います。

### <スライド 66枚目>



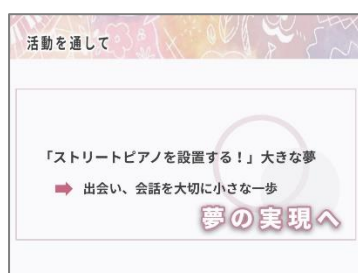
また、知らない方々同士での即興連弾が行われていたりして、世代を超えて繋がる空間になっていました。

## <スライド 67枚目>



活動を通して、札幌の街中に音楽を楽しむ空間を作ることができ、たくさんの繋がりと笑顔が生まれたと思います。

## <スライド 68枚目>



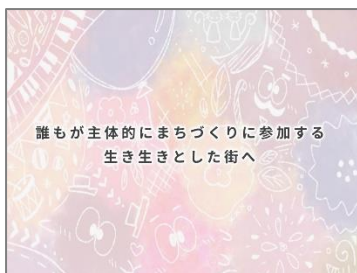
活動を始めた当初は、ストリートピアノをするってとても大きな夢だ。と思っていたので、私たちにできるのか。という不安がすごく大きかったですけど、小さな出会いや会話を大切に1歩踏み出してみることで、夢の実現に近づいていくと実感することができました。

## <スライド 69枚目>



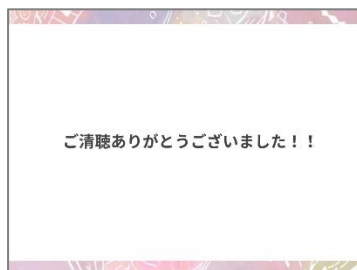
まなびまくり社は、学生が地域と関わりながら、目標に向かって主体的に活動しており、それぞれの思いが周りを動かす力になっています。

## <スライド 70枚目>



まなびまくり社のようなコミュニティがある真駒内は、誰もが主体的にまちづくりに参加する生き生きとしたまちになっていくと思います。

## <スライド 71枚目>



ご清聴ありがとうございました。

高校生の皆さん、ありがとうございました。私は2022年度のまなびまくり社3期生という形で参加させていただきまして、今発表してくれた高校生は2023年度の学びまくり社4期生ですけど、私もまなびまくり社を卒業した後にもまだ関わっていたい。という気持ちがあって、2023年度は4期生の皆さんをサポートする形で参加させていただきました。

高校生は卒業もあるので、次の世代、その次の世代とバトン渡して続いていきますし、私や、シェアスポットチームのように、これからも真駒内地区に関わりたと思っています。高校生はたくさんいます。

なので、駅前に公共空間が生まれた時は、まなびまくり社の高校生が、高校生らしいアイデアで場をデザインしたい。という熱い思いを持っていますし、それを叶えてくれる大人がいますので、ぜひ皆さんと一緒にまちづくりに取り組みたいと思います。

以上でまなびまくり社の発表を終わります。

ご清聴ありがとうございました。